

平成 29 年度全国学力・学習状況調査結果について

彦根市教育委員会
平成29年9月

ひこねっこの「学習状況」について

平成29年4月18日(火)に、全国の小学校6年生および中学校3年生を対象に、全国学力・学習状況調査が実施されました。この調査では、児童生徒の学習状況把握のための「教科に関する調査」と学習意欲や学校生活、生活習慣などを把握する「質問紙調査」がおこなわれました。

今回の調査を分析して、この調査から見てきた本市児童生徒の学力と学習状況に関する結果をお知らせします。

彦根市の教科に関する調査結果

○平均正答数(平均正答率)

※調査の結果は、学力の特定の一部です。

教科等	国 語		算 数・数 学		
	A「知識」	B「活用」	A「知識」	B「活用」	
小 学 校	全 国	11.2問/15問 (74.8%)	5.2問/9問 (57.5%)	11.8問/15問 (78.6%)	5.1問/11問 (45.9%)
	滋賀県	10.9問/15問 (73%)	5.0問/9問 (56%)	11.4問/15問 (76%)	4.8問/11問 (43%)
	彦根市	11.1問/15問 (74%)	5.2問/9問 (58%)	11.7問/15問 (78%)	4.9問/11問 (44%)
中 学 校	全 国	24.8問/32問 (77.4%)	6.5問/9問 (72.2%)	23.3問/36問 (64.6%)	7.2問/15問 (48.1%)
	滋賀県	24.3問/32問 (76%)	6.2問/9問 (69%)	22.8問/36問 (63%)	7.0問/15問 (47%)
	彦根市	24.1問/32問 (75%)	6.2問/9問 (68%)	23.3問/36問 (65%)	7.0問/15問 (47%)

※今年度から滋賀県・彦根市の平均正答率は整数値での公表になりました。

国 語

平均正答率は、小学校ではB問題において全国平均と同程度か、それを上回る結果でした。しかしながら、小学校のA問題、中学校ではA問題・B問題とも、全国平均を下回りました。

小学校では、文章全体の構成を考えて書いたり、目的や意図に応じて、必要な内容を引用や整理をして書いたりできました。しかしながら、中学校では、事象や行為などを表す語句の理解、古典作品の種類の理解など、基本的な内容に課題がありました。

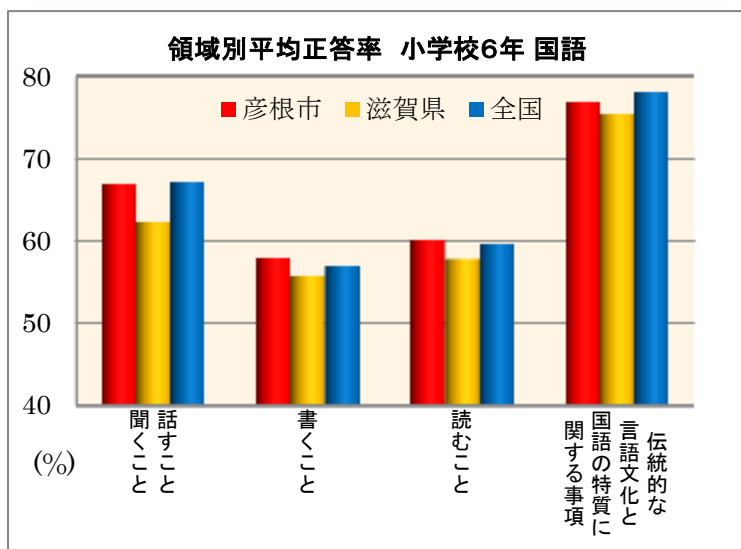
算数・数学

平均正答率は、中学校ではA問題において全国平均と同程度か、それを上回る結果でした。しかしながら、小学校のA問題・B問題とも、中学校ではB問題で全国平均を下回りました。

小学校では、基本的な計算の技能、多角形や正多角形の性質の理解、平均や割合の活用に課題が見られました。中学校では、「図形」「関数」領域で、空間における直線と面の位置関係や線分の長さの理解、比例定数の理解などの定着が見られました。

「ひこねっこ」の各教科の全体的な傾向

小学校「国語」



領域別平均正答率では、「書くこと」「読むこと」領域において、全国平均を上回る結果でした。しかしながら、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」領域では、全国平均を下回り、課題が見られました。

文章全体の構成の効果を考えて書いたり、目的や意図に応じて、必要な内容を引用や整理をして書いたりできました。また、目的に応じて、具体的な叙述を基に、自分の考えをまとめることもできました。しかしながら、漢字の読み書きやことわざの意味の理解に課題がありました。

よくできていた点

○手紙の基本的な形式について、後付けにおける署名と宛て名の位置関係などが理解できています。

(問)

手紙の後付け（手紙の最後に付ける内容）を書こうとしています。（ア）（イ）（ウ）の中に入る内容はどれでしょう。

- 自分の名前
- 日付
- 相手の名前

○目的や意図に応じて、話の構成や内容を工夫し、場に応じた言葉遣いでスピーチ原稿を書くことができています。

(こんなスピーチにしてみよう)

- ・自分の立場をはっきりさせよう。
- ・事実と感想、意見とを区別しよう。
- ・結論を明確にしよう。
- ・話の要点を短い言葉で順序立てて記述したスピーチメモを活用しよう。

○俳句の言葉から、表現の特徴、作者が捉えた情景や季節感などを捉えることができています。



特に課題のみられる点

○文や文章を理解したり表現したりするために、習った漢字は正しく読んだり書いたりできるようにしましょう。

(問)

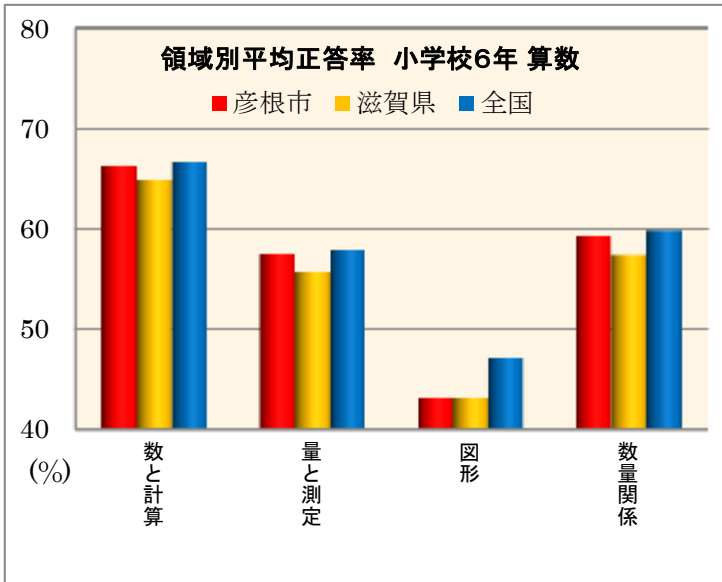
- ・参加たいしょう → 対象
- ・箱がおいてある → 置
- ・事務室 → じむしつ

※「対象」「対照」「対称」など、国語辞典で同音異義語を調べてみよう

○言葉を豊かにするために、ことわざや慣用句、故事成語などの意味を正しく理解し、普段から使うようにしましょう。



小学校「算数」



領域別平均正答率では、「数と計算」「量と測定」「数量関係」領域では、概ね全国と同程度でした。しかしながら、「図形」領域では、全国平均を下回り、課題が見られました。

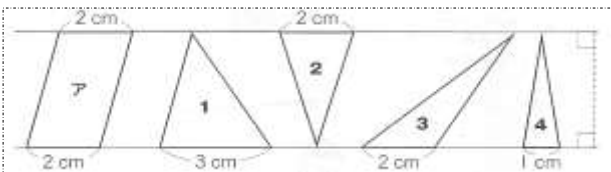
平行四辺形の底辺と高さ、面積の関係、目的に適した割合のグラフの理解の定着が見られました。しかしながら、基本的な計算の技能、多角形や正多角形の性質、立方体の面と面の位置関係の理解、平均の求め方などに課題が見られました。

よくできていた点

○底辺の長さと高さがそれぞれ等しい平行四辺形と三角形の面積の関係について理解できています。

(問)

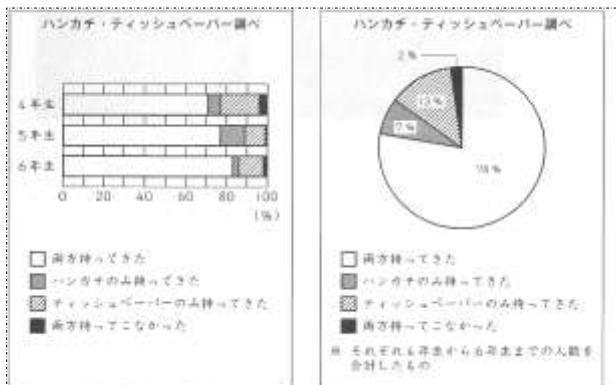
平行な2本の直線を使って、平行四辺形と三角形をかきました。下の1から4までの三角形の中で、平行四辺形Aの面積の、半分であるものはどれですか。



○「棒グラフ」「帯グラフ」「円グラフ」の特徴を理解し、目的に適したグラフを活用することができています。

(問)

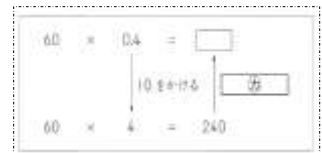
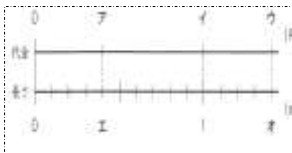
「学年の人数」をもとにしたときの「ハンカチとティッシュペーパーの両方を持ってきた人数」の割合がわかりやすいグラフはどれでしょう。



特に課題のみられる点

○問題場面を的確に捉え、式に表したり、計算の仕方を考えたりできるようにしましょう。

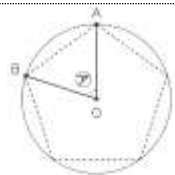
- 問題場面を絵や図に表そう。
- 問題に示された数量を簡単な数量に置き換えてみよう。
- 問題場面から数量の対応関係や大小関係を数直線上に表してみよう。
- 乗法や除法の性質を利用して考えてみよう。



○正多角形の特徴、立体図形の面と面の位置関係など、様々な図形の性質を理解するようにしましょう。

(問)

点Oを中心とする円を使って、正五角形をかきます。角①の大きさは何度にするばいいでしょうか。



○測定値の平均を求める式の意味を理解し、能率的に処理する工夫ができるようにしましょう。

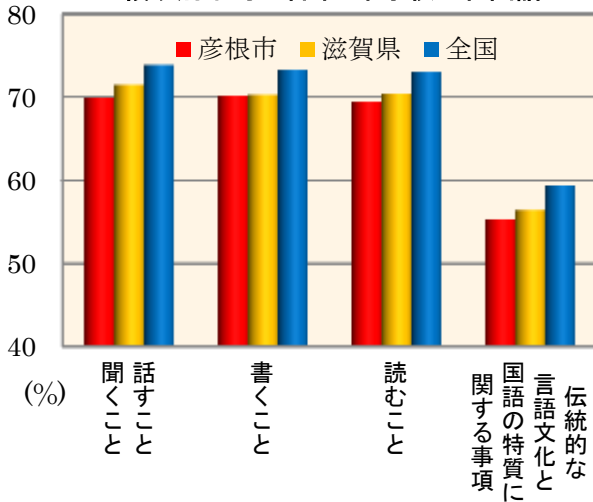
かずやさんは、平均を求める計算を簡単にするために、7 m をに着目し、次のように平均を求めました。

【かずやさんの平均の求め方】

7 m をこえた部分の平均を求めます。
 $(52 + 31 + 54 + 20 + 43) \div 5 = 40$
 7 m に、求めた平均の 40 cm をたします。
 車が遠んだきよりの平均は、7 m 40 cm です。

中学校「国語」

領域別平均正答率 中学校3年 国語



領域別平均正答率では、全ての領域において全国平均を下回りました。とくに「話すこと・聞くこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」領域では、大きな課題が見られました。

事実と意見、根拠等の構成を工夫した話を組み立てること、場面の展開や登場人物の描写をもとに内容を理解すること、見通しをもって根拠を明確にした自分の考えを書くことなどに課題が見られました。また楷書と行書の理解、事象や行為などを表す語句の理解、古典作品の種類の理解など、基本的な内容に課題がありました。

よくできていた点

○基本的な漢字の読み書き、敬語の理解に定着が見られました。

(問)

- ・組織のきぼ → 規模
- ・店をいとなむ → 営
- ・鮮やかな色あい → あざ
- ・先生もこの書店をよく() → ご利用になる



特に課題のみられる点

○語句の意味の理解、助詞の使い方、行書と楷書の特徴、古典作品の種類など、日頃から言葉に関心をもって、自分の語彙を豊かにしていきましょう。

- ・「急がば回れ」などのことわざや故事成語、慣用句を普段から使おう。
- ・「確信」の「しん」など、「臣」「新」「信」「進」と、同音異義語は読み方だけでなく漢字一字一字の意味を確認しよう。
- ・「随筆」「漢文」「物語」「和歌」など、様々な古典作品に親しもう。

○場面の展開や登場人物の描写、言動に注意しながら読み、内容を理解するようにしましょう。

(問)

この文章に登場する人物について整理したものです。当てはまる人物の組み合わせはどれでしょう。

- ア・・・見物している イから、「天下の英雄」とたたえられている。
- イ・・・見物しながら、アの技術をほめたたえている。
- ウ・・・見物しながら、イの話聞き、家に戻って木を掘り始めている。

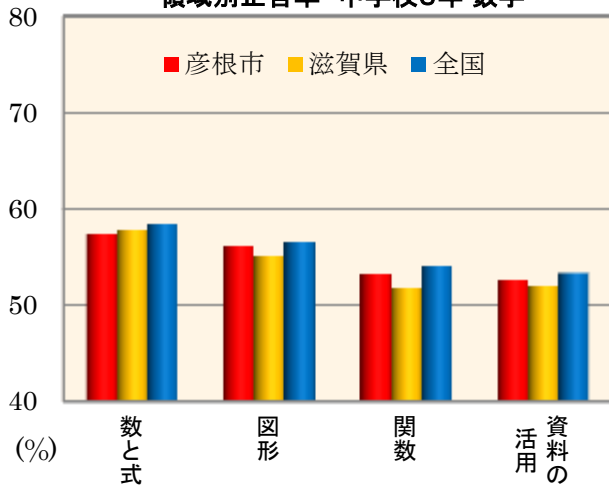
○目的や意図に応じて、必要な情報を整理し、根拠を明確にして自分の考えを書くようにしましょう。

書く目的や意図に応じて、

- ・集めた材料を取捨選択しよう。
- ・関連を考えて分類しよう。
- ・時間的な推移や因果関係などで整理しよう。

中学校「数学」

領域別正答率 中学校3年 数学



領域別平均正答率では、「図形」領域においては、概ね全国平均と同程度でした。しかしながら、「数と式」領域では、全国平均、滋賀県平均を下回り、課題が見られました。

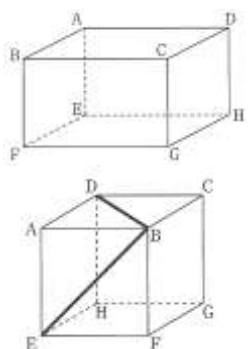
「図形」では、空間における直線と平面の位置関係や、面上の線分の長さの理解、「関数」では、比例・反比例の関係、比例定数の意味の理解などの定着が見られました。「数と式」では、整式の加法・減法の計算、目的に応じた等式の変形など、文字式の計算に課題がありました。

よくできていた点

○空間における直線や平面の位置関係、見取図から辺の長さや角の大きさなど、必要な情報を読み取ることができています。

(問)

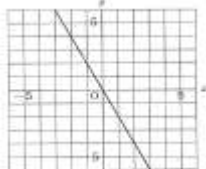
- ・次の直方体には、辺CGに平行な面がいくつかあります。そのうちの直方体の面を一つ選んで書きなさい。
- ・この立方体の面ABCD上の線分BDと面AEFB上の線分BEの長さを比べます。線分BDと線分BEの長さについて、正しいものを一つ選びなさい。



○比例・反比例の関係について理解し、表、式、グラフに表したり、比例定数を求めたりすることができています。

(問)

- ・比例 $y = 4x$ について、 x の値が3のとき y の値を求めなさい。
- ・比例のグラフを表しています。このグラフについて、 y を x の式で表しなさい。
- ・ y が x に反比例する関係を表したものです。この反比例の比例定数を求めなさい。



x	...	2	3	4	...
y	...	18	12	9	...

特に課題のみられる点

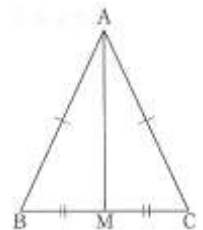
○数量の関係を文字式に表したり、文字式の意味を読み取ったり、計算したりできるようにしましょう。

(問)

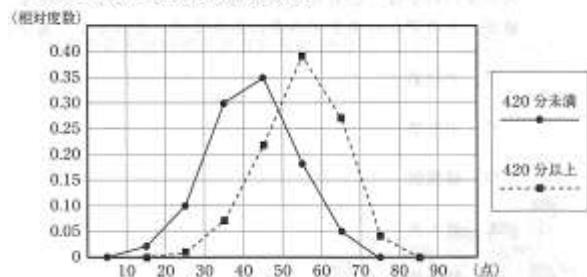
- ・ $100 - 20a = b$ の式で表される場面を選びましょう。
- ・ $(2x + 5y) - (6x - 3y)$ を計算しなさい。
- ・等式 $x + 4y = 1$ を y について解きなさい。

○事象を数学的に筋道を立てて証明したり、自分の考えを説明したりするために、数学の基本的な事項を理解するようにしましょう。

- ・対頂角
- ・同位角
- ・錯角
- ・平行線の性質
- ・多角形の内角の和
- ・三角形の合同条件
- ・平行四辺形などの平面図形の性質
- ・度数分布表
- ・相対度数
- ・中央値
- ・最頻値
- ・平均値



若菜さんが作った度数分布多角形



「ひこねっこ」の学習の課題

小学校・国語

- 話し合いにおいて考えの共通点や相違点を整理することや、資料から必要な情報を選び条件に合わせて書くことに、さらに力をつけることが求められます。
- 目的やテーマを明確にして考えを伝え合ったり、伝えたいことを中心に考えて書いたりするなど、自分が伝えたいことについて、目的や意図に依じて的確に表現する学習を大切にしていきます。

小学校・算数

- 小数と整数の加法の計算に課題があり、これまでの調査と同じ傾向が見られました。「位をそろえて加減の計算をする」など基礎的な技能が定着に至っていないことが見て取れます。数の仕組みの理解をもとにした計算の技能の習得が求められます。
- 多角形の性質の理解に課題がありました。学校では、授業の中で補助線を引いたりカードを操作したりするなど、体験的な活動を通して学ぶことを大切にしています。こうした学習経験を生かして適応題に向かい、解き方を説明し合う活動を積極的に取り入れることで、理解の定着を図ります。

中学校・国語

- 中学校では、説明文における事実と考え、物語文における場面の展開や登場人物の相互関係をとらえるなど、文章の構成や展開を把握して課題がありました。初めて出会う文章でも、一読して全体像をつかみ、文章の内容を理解する力が求められます。
- 「何ができるようになるか」「何が分かったか」を生徒自身が自覚して学習できるようにし、身につけた力を活用する場面を設定して、基礎的な力の定着を図ります。

中学校・数学

- 多角形の内角の和の求め方の理解に課題がありました。問題を解くには、小学5年の多角形の学習、中学1年の文字式の学習の理解が不可欠です。学びのつながりを意識することが大切です。
- 与えられた資料から必要な情報を適切に読み取ることや、ある事柄が成り立つ理由を筋道を立てて考え証明することにも課題がありました。立式や計算の仕方をスキルとして習得するのではなく、問題解決に必要な情報を適切に読み取ったり、数や式の意味を説明したりする学習により、理解の定着を図ることが求められます。

総括

- 小学校・中学校とも漢字を正しく読んだり書いたりすることには大きな課題がありました。漢字や語句は、一度学習しただけでは定着しません。繰り返し練習を積み重ねるだけでなく、習った漢字は、意味を理解して使うことを習慣づける必要があります。
- 物語・伝記・図鑑・詩歌・随筆・評論などのさまざまな文章にふれ、ことわざや慣用句、故事成語などの言葉の語彙を増やし、言葉の世界を広げることが大切です。
- 基本的な知識・技能を習得するには、単純に練習問題をくり返すだけでなく、計算の間違ひを見つけたり、考え方を順序立てて説明したりする学習が大切です。
- 学校では、各学年の学習内容が前学年とどうつながっているのか、次学年とどのようにつながっていくのかを考えて、学びのつながりを大事にしていきます。
- 記述式の問題の無回答率は、選択式の問題の無回答率よりも高く、「書くこと」に苦手意識をもつ子どもが多くいます。学校では、話したり聞いたり、書いてまとめたりする学習を授業の中に位置づけ、思考力や表現力の向上を目指します。
- 自分の考えを根拠を示しながら説明する表現力の育成が求められています。学校では、自分の考えを表現したり他者と対話したりする機会を設けることで、多様な見方・考え方の視点を得るとともに、図や式、表、数直線など、具体的な資料等を根拠として示しながら、考えを相手に分かりやすく伝える力を育てていきます。

「ひこねっこ」の学習・生活の調査結果

彦根市では、子どもたちの健やかな成長と、学ぶ力の育成をめざして、「ひこねっこ 学びの6か条」を推進しています。

学力・学習状況調査の児童生徒質問紙の回答状況を6か条の視点で分析し、彦根市の子どもたちの学びの様子を、見つめてみましょう。

彦根教育 学びの提言

ひこねっこ 学びの6か条

い

いっぱい本を読もう
本は心の栄養・知識の宝庫

い

いい汗かいて役立つ
家族のために、地域のために

な

なぜだろう、やってみよう
好奇心は学ぶ意欲のみなもと

お

おはよう、ありがとう
あいさつで人と人とのつながりを

す

スポーツや外遊びをしよう
元気な体づくり、心づくり

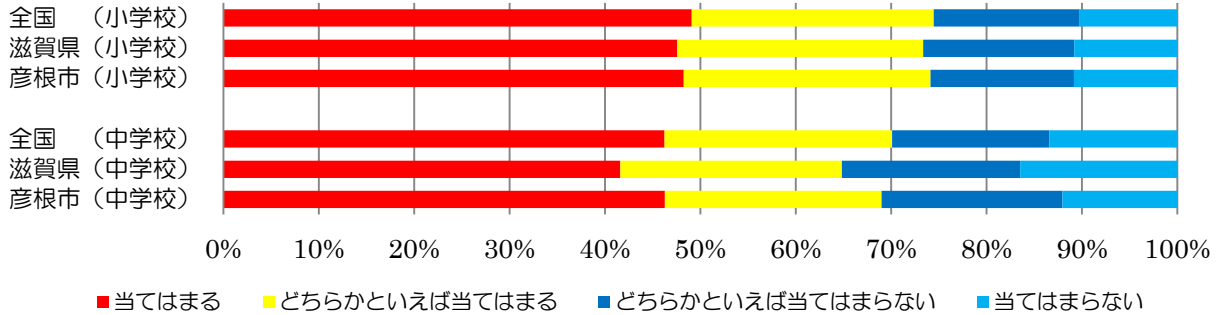
け

けじめある生活をしよう
早ね 早おき 朝ごはん

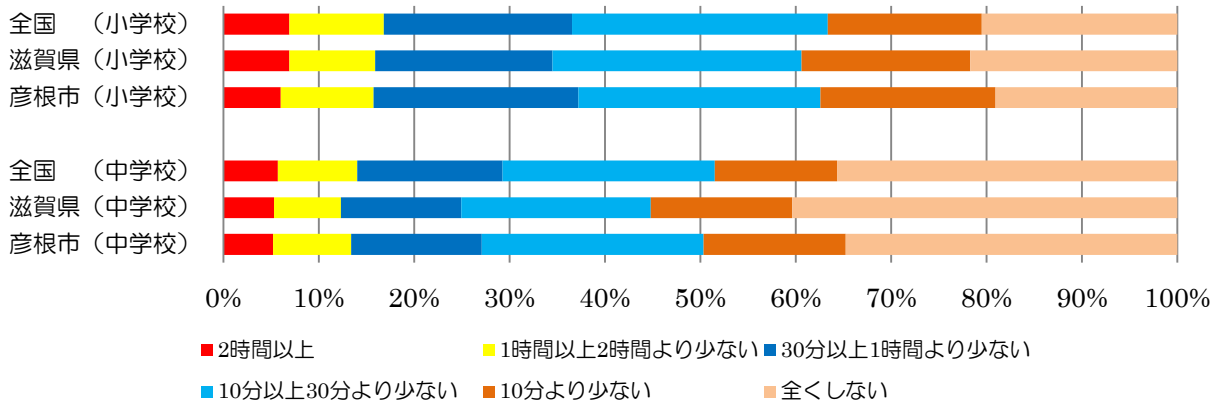




読書は好きですか（全国比較）



授業の時間以外に、普段（月～金）1日当たりどれくらいの時間、読書しますか（全国比較）



「読書は好きですか」という問いに肯定的に答えた子どもは、全体の約70%で、全国とほぼ同程度の割合となっています。

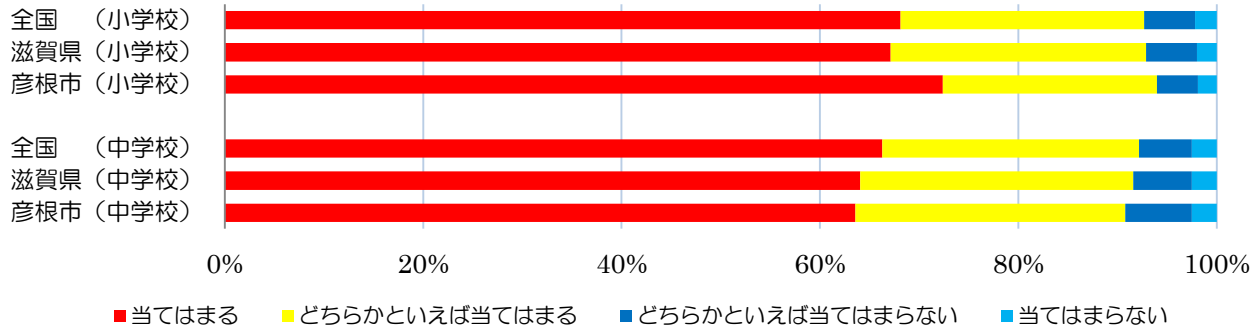
1日当たりの読書時間について、普段わずかでも読書をしていると答えた子どもは、小学校では80%程度、中学校では65%程度でした。いずれも、全国と同等の値を示しています。

読書にはさまざまな効果があります。新たな知識を得たり、偉人の考え方や言葉にふれたりして、自分の世界を広げることができます。今まで知らなかった言葉や文章表現に出会うことは、自らの語彙力や表現力をアップさせることにもつながります。

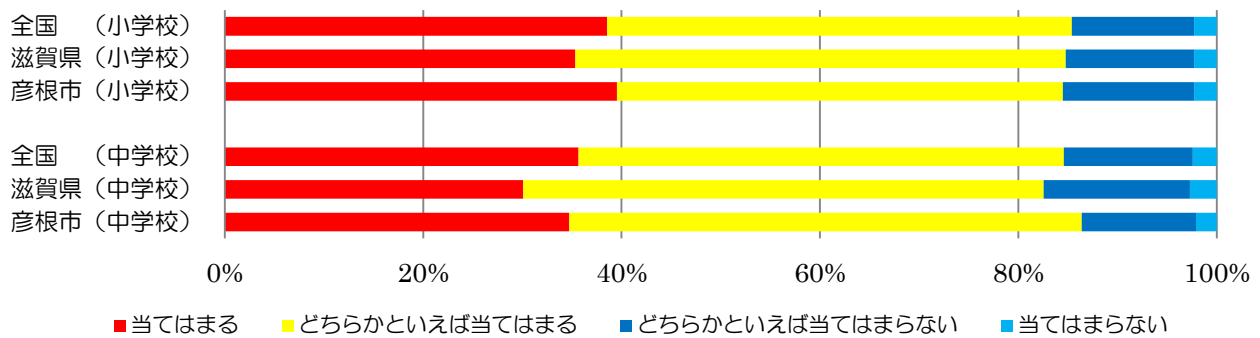
彦根市では、学校における読書活動推進のために、各小中学校に読書活動支援員を配置しています。学校支援ボランティアさんによる校園での読み聞かせ、朝読書などの取組も継続しています。家庭でも、家族みんなで読書をする時間をつくるなどして、子どもの読書生活がより豊かになることを願います。



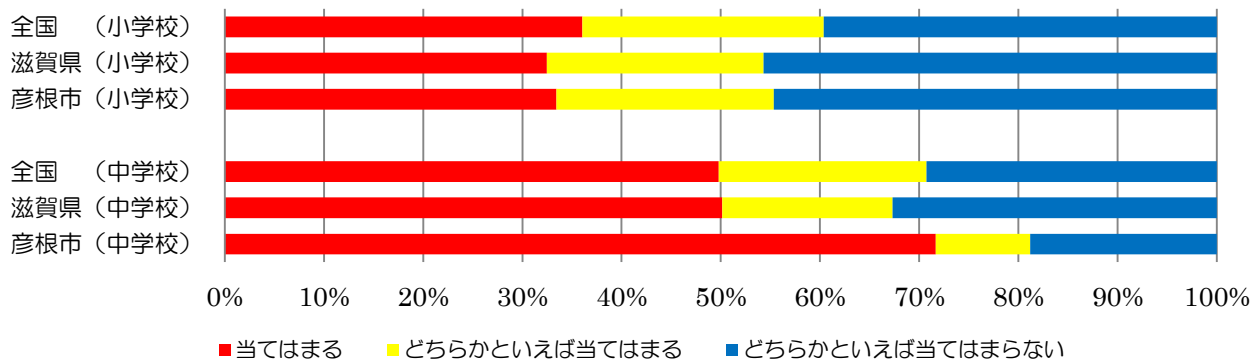
人の役に立つ人間になりたいと思いますか（全国比較）



人が困っているときには、進んで助けていますか（全国比較）



地域社会などでボランティア活動に参加したことがありますか（全国比較）



「人の役に立つ人間になりたいと思いますか。」という問いに、90%以上の子どもたちが肯定的に回答しています。また「人が困っているときには進んで助けている」という問いに肯定的に回答したのは約85%で、中学校においては「地域社会などでボランティア活動に参加したことがある」という問いにも、全国値を上回る80%以上の生徒が肯定的に回答しています。

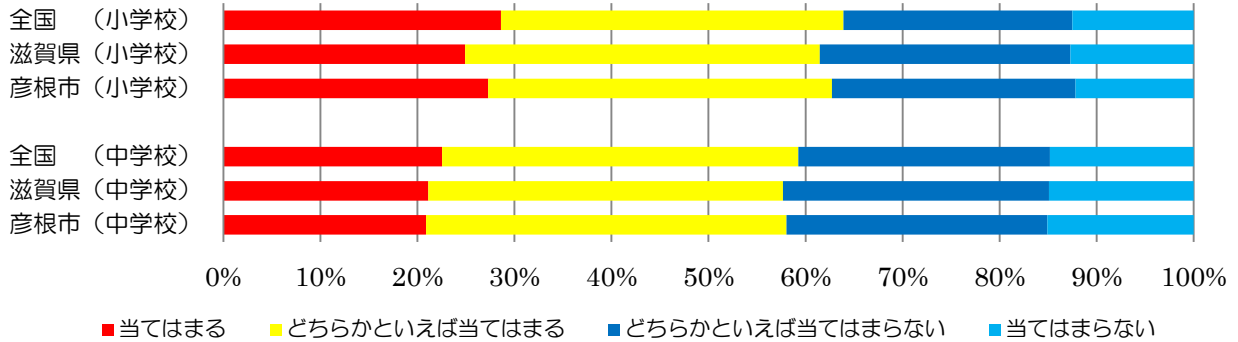
友だちとのかかわりや、家庭・地域の中で、自分にできることを進んでしようとする気持ちはとても尊いものです。自己有用感を感じることで、自分のよさに気づき、さらに将来に対する夢や希望を高めていくことができるでしょう。

学校でも家庭・地域でも子どもたちのよさを認め励まし支えることを大切にしましょう。

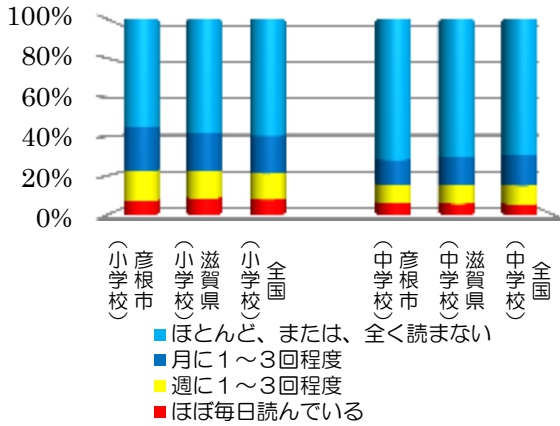


なぜだろう、やってみよう～好奇心は学ぶ意欲のみなもと～

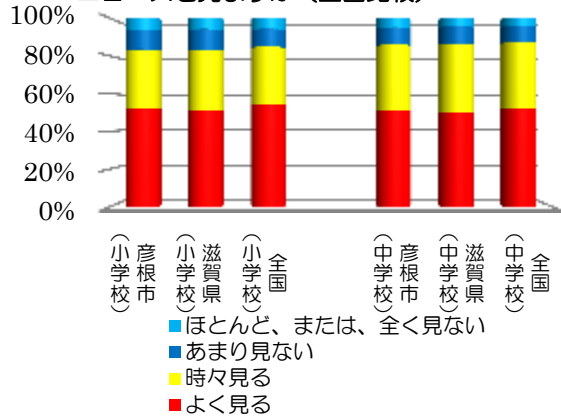
地域や社会で起こっている出来事に関心がありますか（全国比較）



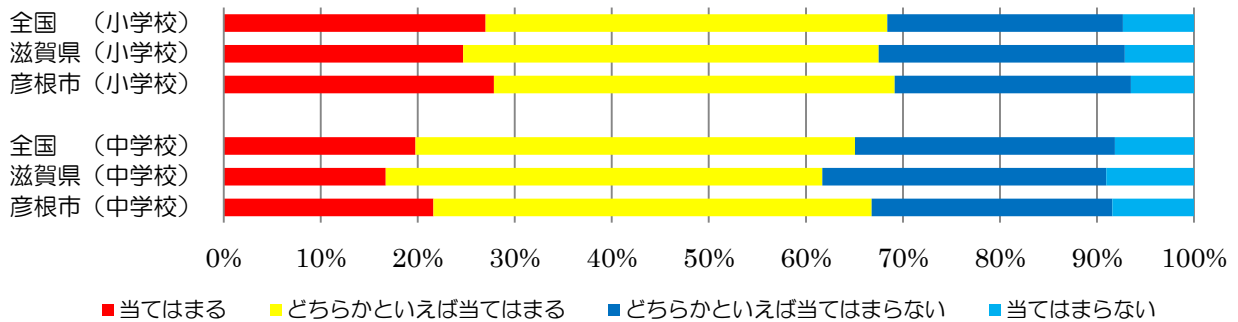
新聞を読んでいますか（全国比較）



テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ますか（全国比較）



学級の友達との話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか（全国比較）



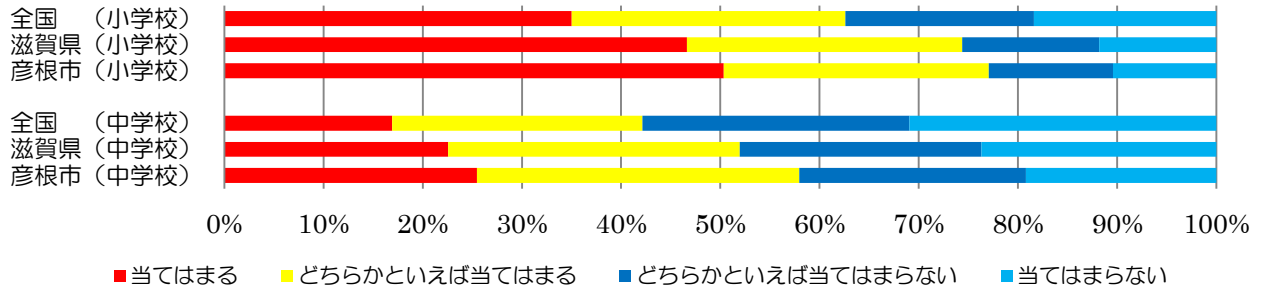
「地域や社会で起こっている出来事に関心がありますか。」という問いに肯定的に回答したのは60%程度の児童生徒で、全国とほぼ同程度の割合を示しています。情報収集には新聞よりもテレビやインターネットといった電子機器を利用する児童生徒の割合が圧倒的に多いことが分かります。

また、学校で、話し合う活動を通して自分の考えを深めたり広げたりすることができていると回答した児童生徒の割合は全国よりやや高くなっています。「知りたい」「分かりたい」という思いは学ぶ意欲となり、「考えを伝え合いたい」という思いは学びを深める第一歩です。子どもたちが自ら課題意識をもち、意欲的に学ぶことができるよう、支えていきたいです。

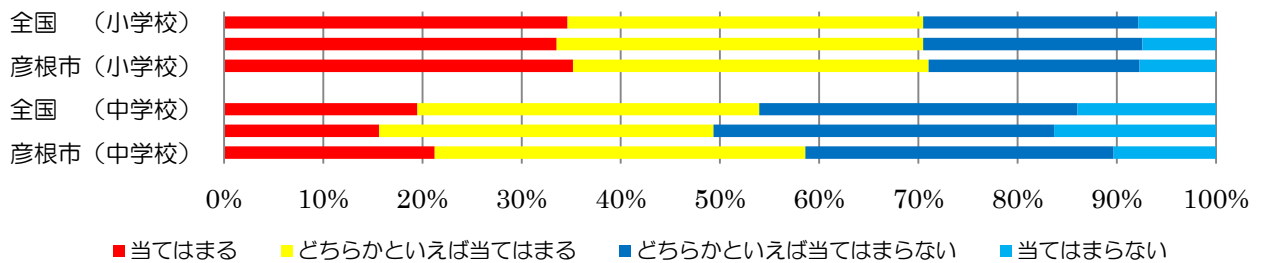


おはよう、ありがとう～あいさつで人と人とのつながりを～

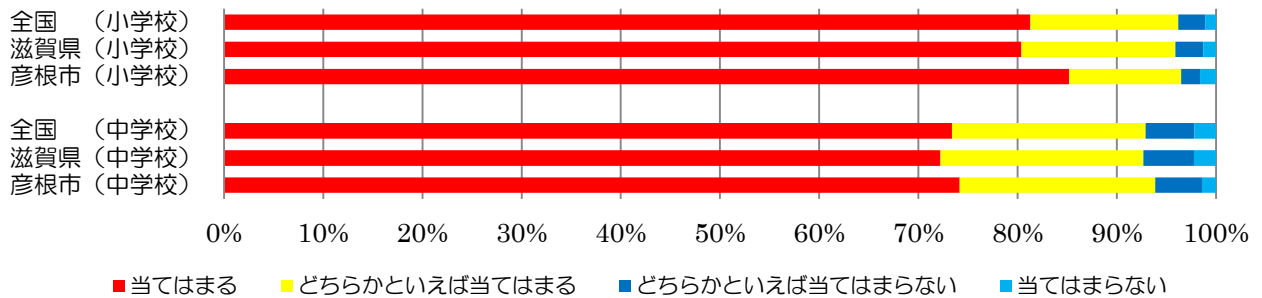
今住んでいる地域の行事に参加していますか（全国比較）



授業や課外活動で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会があったと思いますか（全国比較）



いじめはどんなことがあってもいけないことだと思いますか（全国比較）



「今住んでいる地域の行事に参加していますか。」の問いに、小学校では約80%、中学校では約60%の児童生徒が肯定的に回答しており、いずれも全国値を上回っています。

また、「授業や課外活動で、地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会があったと思いますか。」の問いに、小学校では約70%、中学校では約60%が肯定的に回答しており、中学校では全国値を上回っています。学校では地域素材を活用した学習が行われていることが分かります。

「いじめはどんなことがあってもいけないことだと思いますか。」の問いには90%を超える児童生徒が肯定的に回答しています。

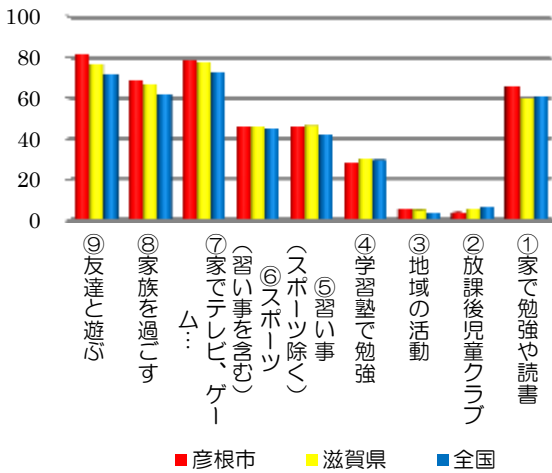
地域のつながりを生かし、地域のよさやお互いのよさを再確認する学習を通して、子どもたちの心身ともに健やかな成長を支えられるよう、今後も、学校・家庭・地域の連携充実を図っていきたいと考えます。



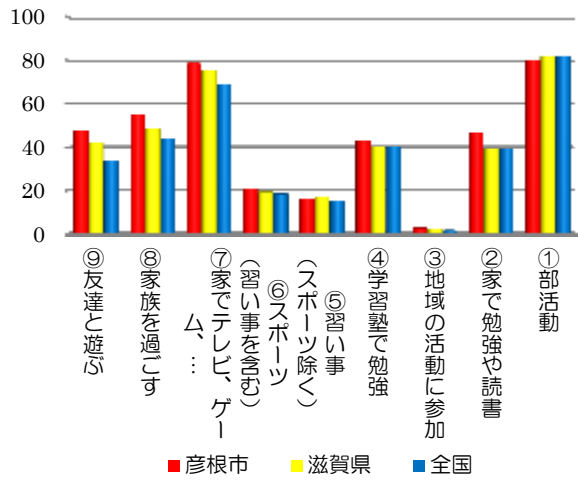


スポーツや外遊びをしよう～元気な体づくり、心づくり～

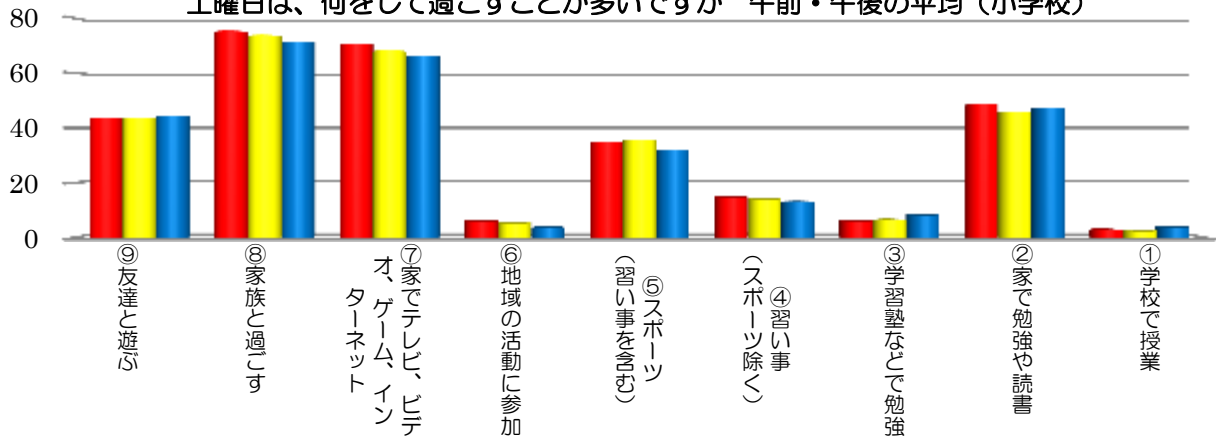
放課後に何をしてお過ごしが多いですか (小学校)



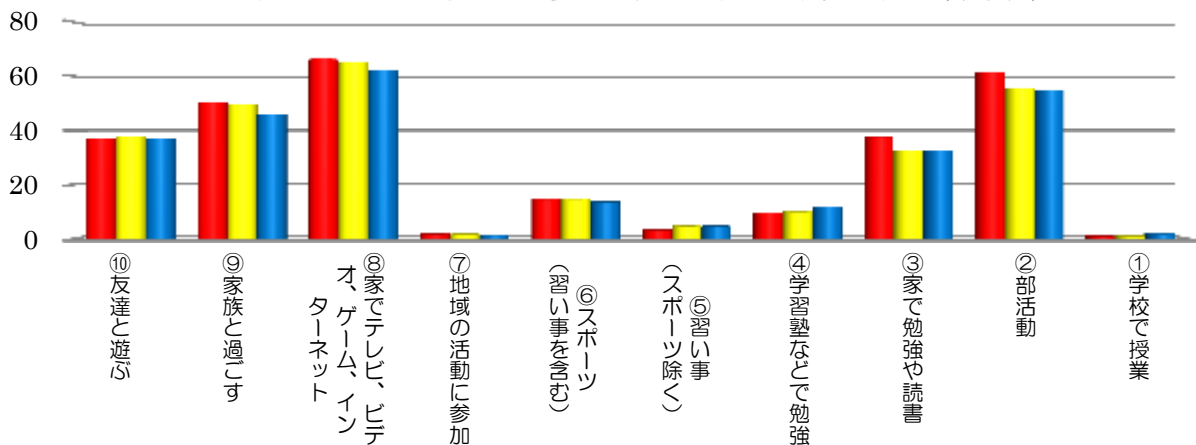
放課後に何をしてお過ごしが多いですか (中学校)



土曜日は、何をしてお過ごしが多いですか 午前・午後の平均 (小学校)



土曜日は、何をしてお過ごしが多いですか 午前・午後の平均 (中学校)



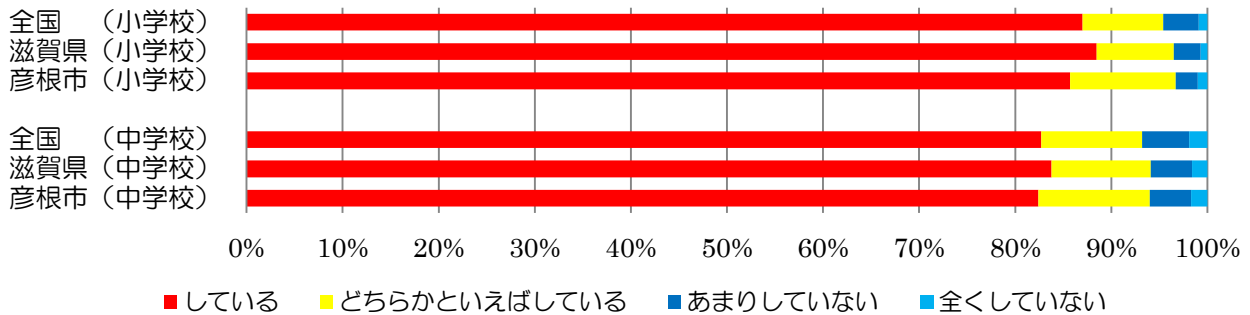
子どもたちが運動に親しむのは、部活動や運動系の習い事といった機会が多いようです。小・中学校とも、「家でテレビやビデオを見たりゲーム、インターネットをしている」と回答する児童が平日、休日を問わず県・全国平均よりも多いです。

「家族と過ごしている」「友達と遊んでいる」と回答する児童生徒が多いので、家族や友達との過ごし方を工夫することで、より運動に親しむことができるとよいと思います。

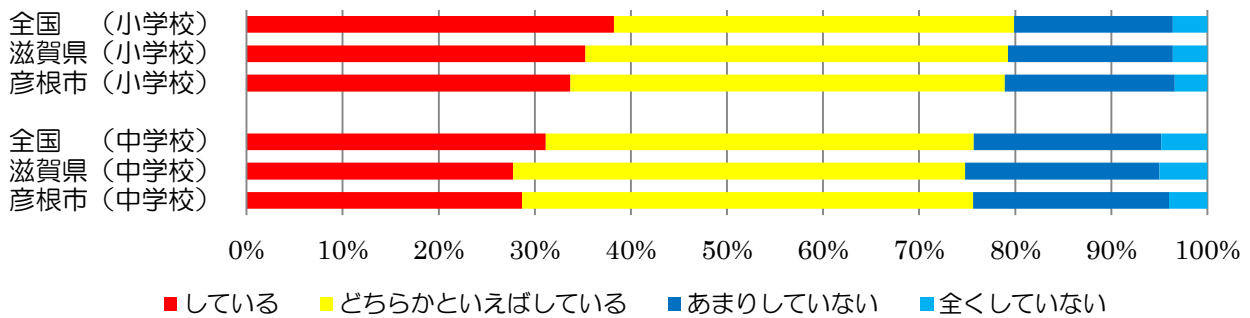


けじめのある生活をしよう～早ね 早起き 朝ごはん～

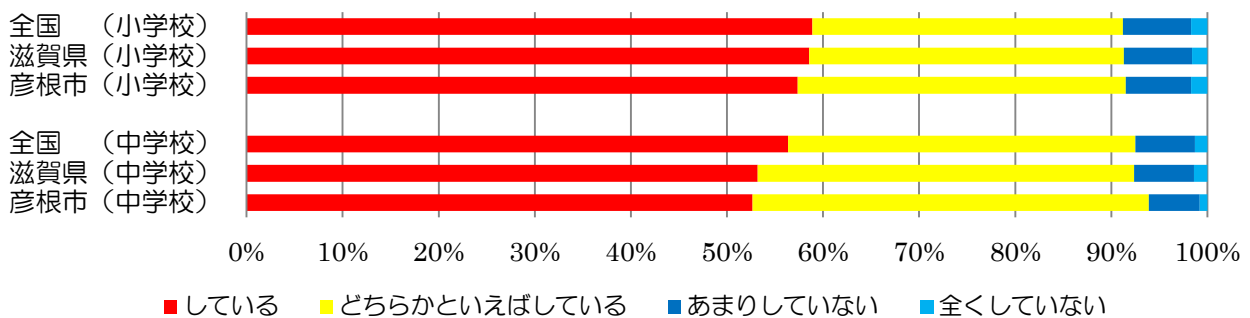
朝食を毎日食べていますか（全国比較）



毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか（全国比較）



毎日、同じくらいの時刻に起きていますか（全国比較）



上のグラフから、「早ね・早起き・朝ごはん」の3つの生活習慣について、彦根の子どもたちは、おおよそ良い習慣が身についていると見て取れます。（就寝時刻については、ややばらつきがあるようです。）

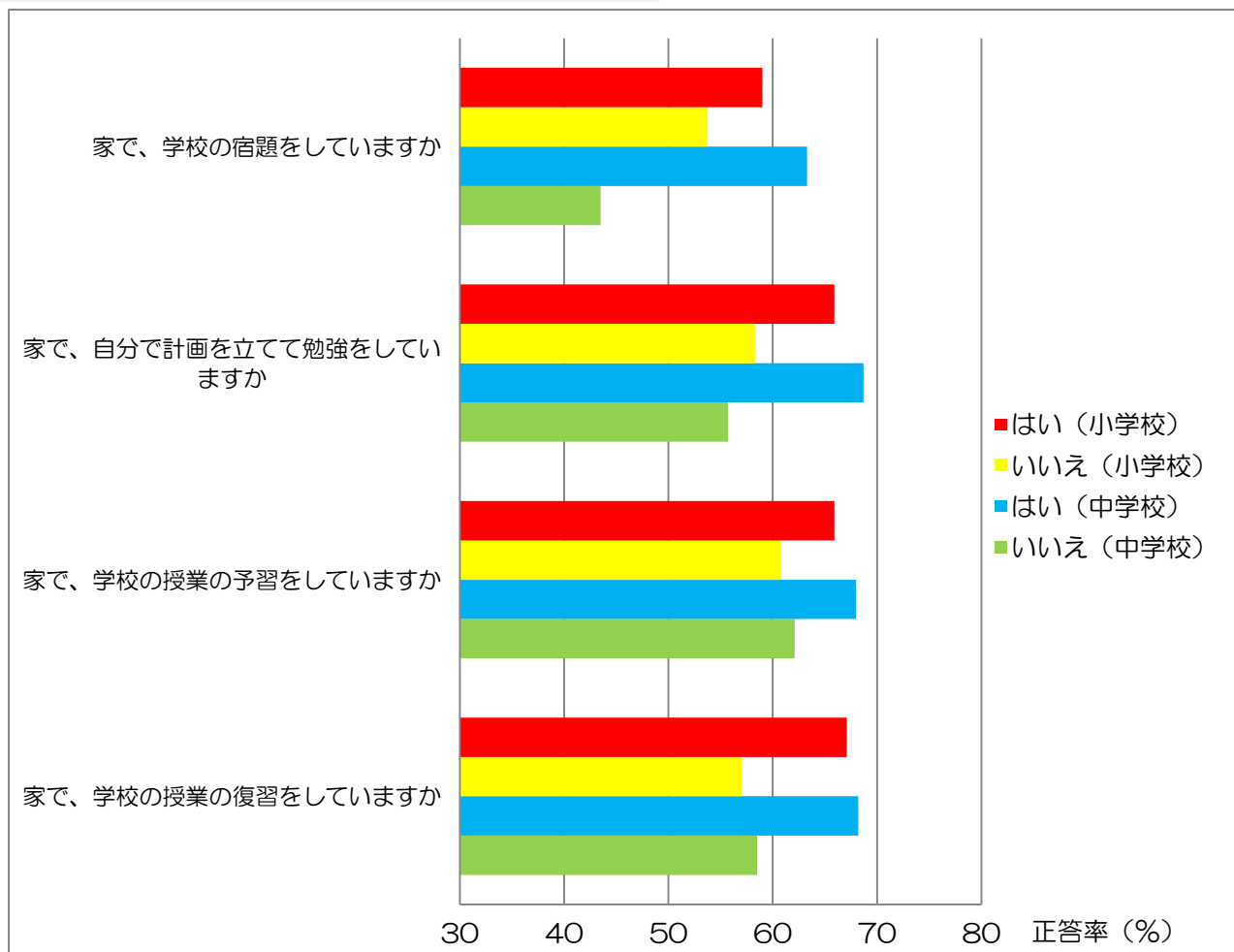
しかしながら、どの項目についても、「している」とはっきりと回答をする児童生徒は、全国平均を下回っています。

子どもたちの日々の生活を支えるものは、基本的な生活習慣（規則正しい生活）です。基本的な生活習慣の確立は、子どもたちの学習を支えます。規則正しい生活ができるよう、今一度ご家庭の協力をお願いします。



学力調査と質問紙調査とのクロス集計から

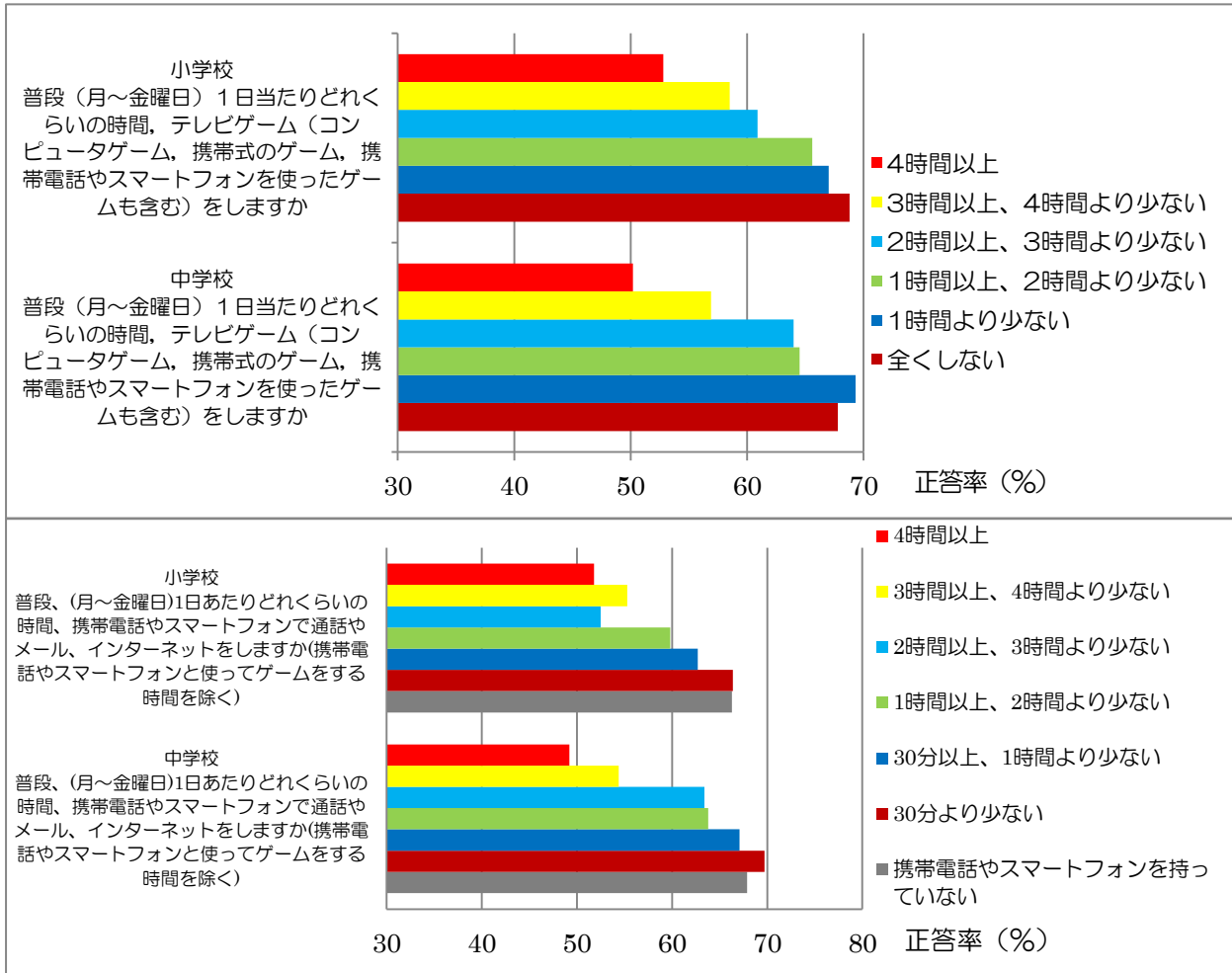
家庭学習との関わりについて



- ◇「家で、学校の宿題をしていますか」という問いに肯定的に答えた子どもは、否定的に答えた子どもに比べて、正答率が小学校では5ポイント程度、中学校では19ポイント以上高くなりました。
- ◇「家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか」という問いに肯定的に答えた子どもは、否定的に答えた子どもに比べて、正答率が小学校で8ポイント程度、中学校で13ポイント程度高くなりました。
- ◇「家で、学校の授業の予習をしていますか」「家で、学校の授業の復習をしていますか」という問いでは、どちらも肯定的に答えた子どもの正答率が高く、とくに「復習をしていますか」の問いでは、小学校、中学校ともに、10ポイント程度高くなりました。

「家で、学校の宿題をしていますか」「家で、学校の授業の復習をしていますか」のグラフを見ても分かるように、子どもたちの学力定着と家庭学習の関係は明らかです。

学校から出される宿題には、その日に習ったことからを繰り返し学習させて着実に身につけさせる、次の学習に向けて準備させるなどの意図があります。また、低学年から取り組むことで、家庭での学習習慣を定着させることもねらいであります。学校からは、「家庭学習の手引き」などを配布したり、根気強い取組を賞賛する彦根マイ☆(スター)に取り組んだりしています。保護者の皆様にも家庭学習の重要性をご理解いただき、学校、家庭ともに取組を充実させていきたいと思えます。子どもたちが学習に集中できる環境づくりにご協力をお願いします。



- ◇「普段、1日あたりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をしますか」という問いに対して、「4時間以上」と答えた児童生徒は、「1時間より少ない、全くしない」と答えた子どもより、小学校で16ポイント、中学校で18ポイント程度正答率が低くなりました。
- ◇「普段、1日あたりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか」という問いに対して、小学校で「4時間以上」と答えた児童は、「30分より少ない」「携帯電話やスマートフォンを持っていない」と答えた児童と比べて、15ポイント程度正答率が低くなりました。同様の問いに対して、中学校で「4時間以上」と答えた生徒は、「30分より少ない」「携帯電話やスマートフォンを持っていない」と答えた生徒と比べて、20ポイント程度正答率が低くなりました。

昨年度と同様、本年度も小学校、中学校とも、ゲームをする時間や、携帯電話や、スマートフォンを使って通話、メール、インターネットをする時間と学力との間に関係がみられました。

彦根市の子どもたちは、普段（月曜日～金曜日）に「2時間以上ゲームをしている」と回答したのが、小学生の34%、中学生の37%でした。また「2時間以上携帯電話やメール、インターネットをしている」と回答したのが、小学生の13%、中学生の34%でした。この値は昨年度より2～6%高くなっていて、子どもたちがこれらの情報機器にふれる機会が増えていることを表しています。

携帯電話、スマートフォン等を使ってコミュニケーションしたり、インターネットにアクセスしたりすることは、子どもたちの日常生活の一部になりつつありますが、それぞれの家庭でゲームや携帯電話、スマートフォンの使い方のルールを話し合っ決めて、適切な使い方を考えることが大切です。